

# 『金沢の都市づくり 来し方 行く末』

～新幹線とスポンジ化の狭間で～

2019. 6. 8

金沢学院大学 教授 竹村裕樹

## はじめに

### 都市を取り巻く潮流の変化

都市化→都市型→人口減少社会。 量的拡大→質的充実。 新市街地開発→既成市街地再構築  
人口減少・少子高齢化、IT化、国際化、中心市街地活性化、官民協働、地球環境保全・・・

## I. 金沢の都市づくり

### 1. 誕生期 (寺内町～城下町)

#### (1) 寺内町の誕生

- ・地形の特徴：二つの川と三つの台地
- ・蓮如と一向一揆、尾山御坊、「百姓の持ちたる国」

#### (2) 藩政期：城下町の形成

- ・前田の都市計画：城を中心に武家、町人を同心円状に配置。寺院群、茶屋街の対称配置。
- ・加賀八家：本多家は地方大名並み。地名：本多町、横山町、長町 ※幕末は日本第4の都市

### 2. 萌芽期～成長期 (近代：大正～昭和後半)

- ・近代都市計画のスタート：S2彦三の大火、S5都市計画道路網決定、市電による拡幅
- ・非戦災都市で骨格は藩政期のまま。「金沢60万都市構想」。
- ・高度経済成長期に、人口、経済、まちが郊外に拡大し、それに対する区画整理や道路網などが計画され、整備が本格的にスタート。DID面積、人口も伸びる一方で、旧市街地は減少傾向
- ・モータリゼーションの進展とS42市電の廃止、S45金沢初の線引き実施

### 3. 成熟期 (現代：昭和後期～平成)

昭和50年代後半から平成にかけて、都市のインフラ整備・骨格づくりが進む

- ・「金沢都心軸構想」+「外環」の概成～多くのビッグプロジェクトの実現・・・自分が36年携わる！  
香林坊再開発、近江町再開発、片町きらら、駅・武蔵間再開発、金沢駅周辺整備、  
県庁周辺副都心区画整理、金沢港、金沢城公園、外環状道路、新交通システム導入の検討
- ・「区分けの理論」：現代的開発と歴史的保全のゾーニング・共存

### 4. 熟成期 (これから：平成後期～令和)

新幹線が来た今が、本格的に「熟成」を迎える時！

新幹線開業という新たな外部刺激に合わせて、一応のハード面での受け皿は整う

ソフト面でも伝統環境条例以降法的整備と街並み景観、伝統工芸などのレベルアップ

## II. 「北陸新幹線開業」の光と影

### (1) 開業への取り組み

- ・ 県STEP計画 : おもてなし、食文化、歴史・景観の3本柱
- ・ 取組事例 : PRイベント、ひやくまんさん、アンテナショップ、情報センター、観光列車・・・
- ・ 受け皿づくり : 交流基盤の整備 (のと里山海道、金沢城公園、金沢港など)

### (2) 開業前後の変化 (1年目と2年目以降)

#### ① 主要交通

新幹線利用者、空港利用者

#### ② 来訪者

観光客入込客、文化施設入場者、コンベンション開催

#### ③ インバウンド

外国人客・宿泊者

#### ④ 企業

企業の開設、オフィス・ホテル等の稼働率・建設計画

#### ⑤ 二次交通

歩行者、バス利用者、まちなり利用者

#### ⑥ 印象

金沢の魅力・不満 (日本人・外国人)

### (3) 新幹線開業の光と影

- 1年目は急増、2年目以降は微減するも、新幹線効果は概ね継続。金沢の一人勝ち??
- 来訪者・地元民とも、石川・金沢の魅力を再発見!

<光>

- ① 観光客向けの宿泊・商業施設や文化施設等は経済効果大 → 加賀・能登全域に効果波及へ
- ② ライフスタイルの質的向上 → ビジネスもプライベートも、便利でスピーディな東京往復
- ③ 広域観光ルートの展開 → 近県観光資源とのネットワークで相乗効果

<影>

- ① 観光客のマナー問題?
- ② 地元客・地元店への支障?
- ③ 観光客向けの流行は、本来の文化?

### (4) 今後の課題

- ① 新たな観光の展開 → 広域観光の展開、ニューツーリズム、MICE、国際化対応
- ② 来訪者との共存共栄 → 異文化との共生、地元への利益還元
- ③ 移住・定住の促進 → 地元学生の定着と多世代のI・J・Uターン促進 (居住環境+就業環境)
- ④ 市民の生活・文化の質的向上とまち磨きの不断の努力 → 市民生活ファースト

### Ⅲ. 成長・成熟の光と影

成長期には、郊外への「ドーナツ化現象」、今は、「まちなかのスポンジ化」が進展

#### 1. 「光」と「影」

##### (1) 光

- ① 街の構造・骨格が明快に実現、様々な都市機能の配置
- ② 区分けの論理による、新旧の魅力アップ（現代的創造・リニューアルと歴史的保全・利活用）
- ③ 伝統文化の醸成

##### (2) 影

まちなかの人口減少、高齢化の進展、身近な商店の減少→「まちなかのスポンジ化」

- ① 小学校の統廃合・・・最近30年で、13校が5校に減少
- ② コミュニティ活動の危機・・・公民館組織の頑張り
- ③ 空き地・空家の増大・・・コインパーキングが急増

##### (3) 熟成のためには、「影（スポンジ化）の克服」

影を逆手にとって、既存ストックの活用、転用が必要

更には、成熟から高齢化へ・・・インフラの老朽化への対策が喫緊の課題

今不足する機能、求められる機能、伸ばすべき機能は何かを考える

#### 2. 「熟成」にあたっての基本的視座

##### (1) 「都市」の熟成・・・金沢の魅力は、歴史・文化の厚みと奥行きの高さ

- ① 「国際都市」としての度量 = 都市格・・・国際コンペ、歴史の中に現代の息吹
- ② 街なかに「人と活気」 = 人間優先
- ③ 地域と歴史に「本物志向」 = アイデンティティ・・・こだわり、DNA

##### (2) 「市民」の熟成・・・「市民ファースト」の視点で

- ① いんぎらーとした日常生活の回復 = 居住環境のレベルアップ
- ② 日常の生活文化の醸成 = 非日常＋日常の文化
- ③ 地域コミュニティの絆の強化 = 日常の活動と災害時の共助

##### (3) 「交流・賑わい」の熟成・・・多文化・多人種・多世代の相互理解の「共生」の視点

- ① 市民同志の交流
- ② 国内外からの来訪者との交流
- ③ 多世代の交流・・・時空を超えた交流

### 3. まちなかのスポンジ化・熟成への処方箋

#### ◇提案1 公共的空間への暫定利用

- ①小規模空地のコインパーキング化を再編・集約+「まちなか広場」の創出  
時空を超えた交流の場に。・・・多世代、多国籍・多文化交流の場
- ②公共的利用を促進するため、土地所有と土地・施設の利活用を「上下分離方式」に  
民有民営、民有公営、公設民営（コンセッション方式）  
所有者の税軽減、利活用者の用途緩和や税軽減、利益の地元還元
- ③波及的多目的活用・・・本来の利用の付加価値  
災害時の避難拠点、避難路。地球環境

#### ◇提案2 空き家、空きビル、統廃合施設の公共的施設への転用

既存ストックの活用によりコンバージョン→都心居住、コミュニティ復権、にぎわい創出

- ①統廃合小学校の活用・・・既に公民館、医療福祉施設、子供～高齢者の多世代交流施設  
若者の自由な文化創造スペース・・・芸術、音楽、劇など
- ②金澤町家のコンバージョン・・・外観と中味の修復  
(例) 都心居住用住宅、コミュニティ施設、シェアハウス、カフェ・レストラン、休憩処
- ③空き店舗のコンバージョン・・・スクラップ&ビルドでなく、外観を揃えて中味を変える  
居住施設を含めた施設のコンバージョン、商業業務施設+居住施設のMIXを義務付け

#### ◇提案3 「人間優先のみち空間」に再編

街路は、「交通空間」+「交流空間」。車から公共交通・自転車へシフト。

交通：車線数の減少と歩行空間の拡幅により、人間中心の「みち空間」にコンバージョン

交流：沿道の空き地等を活用して、「滞留できる広場」を創出

「沿道建物の1階ファサードの開放」と「オープンカフェ」

#### ◇提案4 ハード、ソフトのツーウェイ作戦

昼と夜の二毛作・・・ナイトタイムエコノミー、ナイトカルチャー

特に「夜の活用」。石川栄耀「夜の都市計画：昼耕夜誦」

1店舗2業種(例：山中ゆげ街道)、冬と夏のツーウェイ、四季折々のフォーウェイ

AIやロボットの活用により、マルチウェイ化へ

~~~~~  
竹村裕樹 (たけむら ひろき) プロフィール 金沢学院大学 経営情報学部 教授・KG都市研究所長

1955年金沢市山科生まれ。東京大学工学部都市工学科卒業。石川県庁では、県内のまちづくりに長年携わり、都市計画課長や県央土木総合事務所長等を歴任。特に、県都金沢においては香林坊再開発、県庁周辺副都心区画整理、金沢外環状道路、新交通システム、県景観総合条例等のビッグプロジェクトに携わる。

2015年より金沢学院大学教授として、都市計画や観光・経済等を教えながら、産学官の連携した街づくり活動やフィールドワークにより若い人材の育成に努めている。

金沢市都市計画審議会会長をはじめ、白山市、能美市、加賀市、内灘町、穴水町など県内市町の委員会等に多数参画。都市計画学会、土木学会、金沢日仏協会等にも所属。